

癒しの景観を歩く

〜獅子島ウォーク2026〜



ポンカンを食べてひと息



タイが当たった檜物さん



続々と笑顔でスタート



会場を盛り上げた獅子島太鼓



山頂までもう少し

2月1日、早朝から、獅子島アイランドセンター周辺には諸浦港や水俣港、中田港から定期船や貸切船などを利用して、獅子島ウォークの参加者らが集まりました。前日から島内の民宿に宿泊して大会に臨んだ参加者もいて、島中がにぎわいました。

コース発着点周辺では、獅子島の特産品販売や町内事業者の出品があり、特産品や飲食物を買求める参加者で活気にあふれ、出発前のアトラクションでは、獅子島小・中学校の子どもたちが、獅子島太鼓を披露し、参加者を歓迎しました。

午前10時にスタートすると参加者は、七郎山の山頂を見据えそれぞれのペースで獅子島の景色を楽しみながら前進しました。中継地点では、地元ボランティアからポンカンやあめ玉の配布があり、参加者はひと息ついてゴールへの歩みを進めました。

初参加し、抽選ではタイが当たった檜物ありささん（薩摩川内市）は「きれいな景色にとても癒された。長距離を歩くのは苦手だがゴール後の達成感がある、誘ってくれた仲間へ感謝。タイの調理方法は帰りに考えたい」と充実した表情で話しました。

〜濱田重則さん瑞宝双光章を受章〜

教育と地域活動の貢献に光



長年にわたる教育振興への功績をたたえ、濱田重則さん（馬込・写真中央）が瑞宝双光章を受章され、2月9日、川添健町長と大野憲久教育長から手渡されました。

濱田さんの教職への道は昭和39年から始まり、34年間公立小学校で勤務しました。若いころから「子ども一人ひと

りに真摯に向き合う」ことを信条として、児童の基礎学力向上や豊かな心の育成を心掛けて、より良い教育現場づくりにまい進しました。

蔵之元小学校勤務時代には、地域伝統の棒踊りを道徳教育に取り入れるなどして、郷土愛の醸成を図り、浜田小学校（鹿屋市）教頭や平尾小学校長を歴任。管理職として「子どもが主役の学校づくり」を念頭に、教職員一丸となって教育環境の整備や授業改善に取り組み、学校全体の教育力を高めることに全力を注ぎました。

教育の現場を離れても出身の馬込自治公民館長や町自治公民館連絡協議会の会長を務めるなど、その情熱は衰えることなく、平成30年の汐見小学校の閉校の際は実行役員として地域の絆を次世代へ繋ぐために尽力しました。

「教育に対する誠実な姿勢」と「地域社会との強い絆」を体現してきた濱田さんの功績は、地域の教育・自治の発展に大きな足跡を残しています。